満洲・朝鮮における「国語」教科書に採録された民話教材の性格：モチーフと要素を手がかりに

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2022-02-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒川, 麻実, 池田, 匡史 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4812

満洲・朝鮮における「国語」教科書に採録された民話教材の性格
―モチーフと要素を手がかりに―

児童教育学部　児童教育学科　黒川　麻実
兵庫教育大学　池田　匡史

要旨：植民地教育史研究では、植民地間の比較を行うことが課題として示されてきた。特に国語教育学研究においては近年、「国語」教科書の民話教材に着目した比較が展開されている。そこで本稿では、満洲、朝鮮に着目し、在満日本人、在満中国人、在朝朝鮮人対象の「国語」教科書に掲載された民話教材を対象とし、それら教材に内包されているモチーフや要素に着目することで、教材の内容の傾向を明らかにすることを目的とした。その結果、在満日本人学習者には、満洲を郷土として育てようとしていたこと、在満中国人学習者には、はじめ中華民国への配慮をしていながらも時代が下るにつれ、日本への同化の方向性に進んでいたこと、在朝朝鮮人学習者には、日本への同化だけでなく、正式な領土として他の植民地との差別化を図ろうとしていたことなどが明らかになった。

キーワード：植民地、国語教科書、民話、満洲、朝鮮

1．問題の所在・研究の目的

日本の植民地教育史研究においては、満洲や朝鮮、台湾、南洋群島など、現地用に編纂された様々な教科の教科書に焦点が当てた研究が多く展開されてきた。その中では、大陸の将来を担う子どもたちに育てるため、植民地に適応しやすい現地教材が用いられつつも、内地のプロパガンダとしても機能しうる教材にもなっているなど、教科書編纂が「〈日本人〉の境界」（小熊，1998）をめぐる営みであったことが明らかにされている（Ikeda & Yamamoto，2021）。

【表１】　池田・黒川（2021）の検討対象教科書

対象	教科書名・刊行年等
在満日本人	○南満洲教育会教科書編輯部『滿洲補充讀本』 ・一の巻～八の巻＝刊行：1931～1934年
在満中国人	○南満洲教育会教科書編輯部『初等日本語讀本』 ・巻一～巻八＝刊行：1924～1927年
	○南満洲教育会教科書編輯部『高等日本語讀本』 ・巻一～巻八＝刊行：1926年
	○南満洲教育会教科書編輯部『第二種初等日本語讀本』 ・巻一～巻四＝刊行：1931～1933年
在朝朝鮮人	○朝鮮総督府『普通學校國語讀本（第二期）』 ・巻一～巻八＝刊行：1923～1924年
	○朝鮮総督府『普通學校國語讀本（第三期）』 ・巻一～巻十二＝刊行：1930～1935年

ところで、日本の植民地教育史研究の課題として、植民地間の比較が挙げられている（渡部，2006）。国語教育研究においては、これをうけた研究に、池田匡史・黒川麻実（2021）がある。池田・黒川は、**【表１】**に示す、在満日本人、在満中国人、在朝朝鮮人対象の「国語」教科書に採録されている民話教材を対象とし、植民地間の比較に取り組んだ。具体的には、これらに所収の民話「教材がどこかから取材されたものなのか、創作されたものなのかを明らかにする分析」（p.71）と「教材本文の校異を叙述レベルで行う分析」（p.72）を行い、次のことを明らかにした。

1）満洲では、日本人に対し満洲という土地に親しませようとする意図がある一方で、訓育的内容を意識させようとした向きも認められる。
2）一方、在満中国人を民族的に同化させようという明示的な意識は希薄で、中華民国への配慮や日本語習得大前提という性格が窺える。ただ、不遇な状況下を前提として訓育的内容を与えようとする意図も垣間見える。
3）対する朝鮮では、日本との関係性の強調がある一方、プロパガンダへの志向性が窺えることから、日本への従属化を図ろうとした痕跡が垣間見える。（p.81）

しかしながら、比較、分析の観点は他にも想定できる。このとき示唆的な論考として、植民地朝鮮におけ

る『普通學校國語讀本』のなかで朝鮮民話・伝説に取材したものを教材化する意味を検討した北川知子(1994)がある。北川は、収録された民話教材の内容はどのようなものがあり、そこにどのような思想を読み取ることができるのかを明らかにしようとした。その結果、以下の三点が導き出されている。

① 朝鮮人児童に身近な題材を取り上げることによって、日本語の学習効果を高める。以て日本語普及を促進することをねらっている。

② 古代からの日本と朝鮮との関係の深さを、できるかぎり友好と親善を示すエピソードで示すことによって、朝鮮人に日本への抵抗感を薄めさせ、植民地支配を受け入れさせる。これを裏返したとき、日本が朝鮮人を理解し指導することの責任と必然性を自覚させるために、日本人にとってもこれらの教材が必要だということになる。

③ 「内鮮融和」の実現のために、「内鮮融和」に必要な精神的修養に役立てる。したがって、選択される教材は支配者への抵抗や反感を語り伝える類のものではなく、助け合いや思いやりの描かれたもの・孝行譚等だと考えられる。(p.TK-4)

【表 2】 池田・黒川（2021）が抽出した調査対象教材一覧（p.73）

巻	教材名	巻	教材名	巻	教材名	巻	教材名
『滿洲補充讀本』(一の巻～六の巻)							
一	20. キコリ　ト　ヲノ	三	7. 娘々廟	三	25. 杜子春	五	5. 白鳩の精
二	5. 金の牛		11. 望小山	四	4. 桃花源		13. 孝婦河
	9. ろばとかささぎ		18. 唐王殿		5. 牡丹の花		19. 十三重の塔
	15. 二人のちか目		21. 春聯		11. 龍首山	六	10. 牛の羊
	17. まちぼうけ		22. ある犬の話		19. 石持星と草持星		23. 鴻門の會
『初等日本語讀本』巻 1 ～巻 8							
巻3	14. 金ノタマゴ	巻4	14. フシギナ饅頭	巻5	21. 饅頭のねだん	巻7	15. 犬と蟹
	20. 烏ノチエ		20. 小鳥ト猫		25. 人の口		18. 不老不死の藥
	22. 虎ト狐		24. ナマケモノノ驢馬	巻6	4. 月の桂		23. 張良
	24. 小鳥ノ夢		27. 水中の玉(一)		12. ふしぎな水	巻8	7. 空城計
	27. コブ取り(一)		28. 水中の玉(二)		14. 韓信		13. 唐王殿
	28. コブ取り(二)	巻5	14. 賢い母親		17. 義犬		19. 寒食の日
			19. 望小山		25. 九曲の珠		
『高等日本語讀本』巻 1～巻 8							
巻1	5. 孝女金榮	巻1	20. 塞翁が馬	巻2	7. 邯鄲の夢	巻3	6. 改心
	7. 恩知らずの虎		29. 應擧と猪		13. 小人と靴屋		7. 蛙
	14. 路上の大石		30. 黄鶴樓		14. 熊の情		12. 金で買へぬもの
	16. 志の堅い少年	巻2	1. 幸福		16. 和氏の璧		19. 孝婦河
					25. 兒獅子の話		
『第二種初等日本語讀本』巻 1～巻 4							
巻1	ヤギ（題名なし）	巻3	13. 犬と烏	巻3	補 5. 牛と百姓	巻 4	22. 春聯
	ウサギとカメ（題名なし）		23. 望小山		補 6. 水中の玉		25. 人の口
巻2	28. 白イ　豚		28. ありときり／＼す	巻4	4. 森蘭丸		27. 乃木大將
	30. ネズミ		29. かしこい母親		6. 鐵の牛		補 1. 盲と牛乳
	36. ネコとキツネ		31. 花咲カジヽイ		10. 不老不死の藥		補 4. 唐王殿
巻3	10. 小野道風		補 2. ウサギ		11. 塙保己一		補 6. 寒食の日
			補 3. 月の桂		21. 義犬		
『普通學校國語讀本（第二期)』巻 1 ～巻 8							
巻1	トラトクシガキ（題名なし）	巻3	19. かめのおつかい	巻5	24. 雪舟	巻6	10.弓流し
巻2	7. ネコ		23. 三人の子ども		26. ももの み		14.萬壽
	16. 米グラノネズミ		30. なかのよい兄と弟		3. 三姓穴		21.七里和尚
	30. 三ツノタカラ	巻4	1. 子すずめ三羽		9. 仁徳天皇		26.恩知らずの虎
巻3	7. 赤いニワトリ		11. ぱかちの話		13. 親心	巻7	6.李坦之
	10. 花のにおい		13. 扇のまと		26. かさゝぎの橋	巻8	6.呉鳳
			14. お話ふたつ	巻 6	5. 昔脱解		14.日の神と月の神
『普通學校國語讀本（第三期)』巻 1 ～巻12							
巻1	ウサギとカメ（題名なし）	巻4	22. 巴提便	巻6	11. 神様と孔雀	巻9	2. 鷄林
巻2	11. ヨクノフカイイヌ		25. 三つのつぼ		14. 萬壽		3. 幸福
	26. 三ツノタカラ	巻5	4. 大蛇たいじ		25. 鵲の恩返し		12. 五代の苦心
巻3	14. うらしまたろう		12. 親心	巻7	2. 天日槍		22. 楠公父子
	27. 水の中の玉		19. ろばをうるのう夫		10. 地中のたから物	巻10	21. 心の洗濯
巻4	11. リコウナカササギ		26. 三姓穴	巻8	15. 李坦之	巻11	24. 鐵眼の一切經
	14. 日と風	巻6	8. 昔脱解		20. 扇の的	巻12	23. 恩人碑
					21. 娘々廟		

このような、教材が語る内容という観点に、「植民地間の「比較」」（渡部，2006:15）という要素を加えることが未だなされていないのである。すなわち、各教科書がどのような内容を語っているものなのか、読者・学習者は、日本人と現地人との関係性をどのようなものとして受け取るのか、という観点から検討する必要がある。

以上のことから本稿では、在満日本人、在満中国人、在朝朝鮮人対象の「国語」教科書に掲載された民話教材の内容の傾向を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法・分析の観点

まず、調査対象となる教材を確認する。在満日本人、在満中国人、在朝朝鮮人対象の「国語」教科書に採録されている民話教材は、池田・黒川（2021）によって抽出されている。それを稿者によって整理したのが、**【表２】**に示す一覧である。本稿でもこれに依拠し、調査対象とする。

抽出した民話教材の内容が、教科書ごとにどのような傾向を有しているかを分析する際には、民話教材に内包されているモチーフや要素に着目する。

「モチーフ」とは、「一話を構成する上での主要登場者の主要な一行為、およびそれに直接的に対応する行為を含む単位」（小澤，1999:350）のことであり、例えば「求婚、妖怪退治、魔法にかけられた者の救出、難問の解決、不自然な状態に陥っているものを正しい秩序に復帰させることなど」（相沢，1977:957）が昔話に特に好まれるモチーフとして挙げられる。一方で、「モチーフは無数にある」（相沢，1977:957）とされ、論者によってその設定や枠組みが異なるという現状がある。そのため本稿では、各種教科書の編纂趣意書、および教授参考書を参照しつつ稿者により分類を試みるが、その際には、どのようなことを学習者に読み取らせようとしたかという民話教材の「形成意志」（相沢，1977:957）に主眼を置いたモチーフの分析枠の設定を行う。

また「要素」とは、「昔話を構成する最小の単位」（三原，1977:996）である。例えば「婆が川に洗濯に行く」の要素は「婆」、「川」、「洗濯」と抽出できる。動的な単位であるモチーフに対し、要素は名詞を中心とした静的な単位である。また要素は、「異なった地方や、他姻族に伝播する時」（三原，1977:996）、「その土地の風俗・習慣、その時代の適合した要素に変化する」（三原，1977:996）とされている。そこで、中国（満洲）・朝鮮・日本における文化・土地・人名の固有名詞に着目し、要素として抽出することで、その適合様相や変容についても検討を行っていく。

以降では教科書の対象学習者ごとに民話教材の教材内容の特徴を、①モチーフからの検討、②要素からの検討の順にそれぞれ整理・検討する。ただし、在満中国人対象の教科書については、1932年の旧満洲国建国前後で性格が異なることも想定されるため、『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』と『第二種初等日本語讀本』に分けて検討する。

これらの手順により、在満日本人、在満中国人、在朝朝鮮人対象の「国語」教科書に掲載された民話教材の内容の傾向を明らかにする。

3.『滿洲補充讀本』の民話教材の傾向

3.1.『滿洲補充讀本』採録民話教材のモチーフからの検討

はじめに、『滿洲補充讀本』を取り上げる。この教科書の特徴の一つとして、**《報恩譚》**や**《孝行譚》**の採用の多さが挙げられる。**《報恩譚》**としては、次のような教材が挙げられる。〔ある犬の話（巻3-22)〕は、鉄工場で飼われていた犬が、火事から主人を救うものの自身は焼け死んでしまう。〔龍首山（巻4-11)〕では、老人に助けられた武士が、龍神の怒りを買った老人を救うため、我が身を省みず龍神と討ち合い、命を落とす。これらのように、自身の命と引き換えに忠義を果たすというプロットが美談的に用いられている。

また、**《孝行譚》**として、母親に楽をさせようと勉学に励み、試験を受けるために船で旅に出た息子が登場する〔望小山（巻3-11)〕、過酷な状況の中、周囲から嘲りを受けても自分の企てを止めず、自身の舅姑や周囲を助ける結果になる〔孝婦河（巻5-13)〕、腕前を磨くために母親を一人故郷へ残し死に目に会えなかった石工の伊元吉について描いた〔十三重の塔（巻5-19)〕が挙げられる。これらの多くは、特に母親に対する孝心を表しており、読本の編纂に深く携わった石森延男による影響が反映されたものであると考えられる[1)]。また兄弟愛として、父を探しに出かけた兄弟のうち、川に流された弟を助け自分も犠牲になり両者ともに星となった〔石持星と草持星（巻4-19)〕も該当する。

次の特徴として、**《強欲・怠情・傲慢・愚鈍を戒める話》**の採用が挙げられる。まず、**《強欲を戒める話》**としては、正直者が得をし、その話を聞いた欲張りな者が失敗したというプロットがある。

例えばイソップ民話としても知られ、正直な木こりが、池に落とした斧を神様に尋ねられ、金の斧と銀の斧ではなく鉄の斧だと話すと、神様から全ての斧を与えられる〔キコリトヲノ（巻1-20)〕では、終盤に「トナリ

ノキコリ」がその出来事を聞き、金の斧を落としたと神様に告げると、神様に斧を取り上げられてしまったという内容である。〔金の牛（巻2-5)〕では、欲を出してしまったがために海に沈んでしまった牛が語られている。これらの教材からは、過度な欲を持たず、正直に、地道に生きることの重要性を説いているという特徴を見いだすことができる。また**《怠惰を戒める話》**としては次のものがある。〔待ちぼうけ（巻2-17)〕では、百姓が何もせずとも目の前でウサギが切り株にぶつかり死んだのを見て、同じことがあると期待し続け、働かなかった結果、ウサギは二度と獲れず、畑の収穫もできなかったという内容が語られる。また〔杜子春（巻3-25)〕では、大金持ちと貧乏を繰り返した後に改心して真面目に働くという内容が語られる。これらの教材からは、怠ける心を戒め、勤勉さを促す意図が汲み取れる。**《傲慢を戒める話》**としては、神様の言うことを聞かずに溺れてしまった弟が登場する〔石持星と草持星（巻4-19)〕、また**《愚鈍を戒める話》**としては、自分が町に売られるものとは知らず、鵲にそのことを指摘され馬鹿にされる驢馬が登場する〔ろばとかささぎ（巻2-9)〕が挙げられる。

《知恵者の機転譚》としては、鶏の鳴き声を聞かせることで化け物を追い払うことができた唐の太宗の逸話を描いた〔唐王殿（巻3-18)〕がある。

《努力・忍耐を重要視する話》としては、先に取り上げた〔孝婦河（巻5-13)〕が挙げられる。

3.2.『満洲補充讀本』採録民話教材の要素からの検討

次に、**《中国の固有名詞（土地 / 人名 / 文化)》**および**《日本の固有名詞（土地 / 人名 / 文化)》**の登場について取り上げる。以下、『満洲補充讀本』の民話教材に登場する中国と日本の固有名詞の一覧を整理し、**【表3】**に示す。

【表3】に見られる通り、日本の固有名詞の少なさに比して、ほぼ全ての民話教材に中国の固有名詞が登場していることがわかる。具体的には、地名の由来や縁起という形式で、〔金の牛（巻2-5)〕、〔娘々廟（巻3-7)〕、〔唐王殿（巻3-18)〕、〔龍首山（巻4-11)〕、〔孝婦河（巻5-13)〕は語られている。また、固有名詞ではないものの、〔まちぼうけ（巻2-17)〕では、現地の文化に関わる、「こうりゃん」が登場する。さらに、登場人物が中国由来の名字を持っていることがあるという点にも注目したい。例えば、〔二人のちか目（巻2-15)〕では、笑いの対象となる二人の近眼者に対し、名字があてられている。それは、「陳」と「張」という、中国由来の名字である。また、〔白鳩の精（巻5-5)〕でも、「張」という人物の失敗が語られている。このような事例からは、明示的でない形で、日本人と中国人の立場の違いを暗に示すものとなっていたということができる。

4.『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』の民話教材の傾向

4.1.『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』採録民話教材のモチーフからの検討

次に、『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』の採録傾向を取り上げる。これらに位置づく教材の収録元の教科書を示す際、『初等日本語讀本』を初、『高等日本語讀本』を高と表記する。

これらの教科書の特徴の一つとして、**《強欲・怠惰・傲慢・愚鈍を戒める話》**の採用の多さが挙げられる。**《強欲を戒める話》**として、偶然に金の卵を産んだがちょうの腹を割いて、さらに儲けようとした百姓が登場する〔金ノタマゴ（初巻3-14)〕、右頬に瘤のあった爺が、得意の踊りで鬼を喜ばせて瘤を取ってもらい、その真似をした左頬に瘤のある他の爺さんが、踊りが下手だったため結果的に両方の頬に瘤が出来てしまったという〔コブ取リ（初巻3-27/28)〕、「ヨクノ深イオバアサン」が乞食に饅頭を求められ、与えなかったところ、自分の食べようとした饅頭が全て小さくなり、しまいには消え、

【表3】『満洲補充讀本』に登場する中国・日本の固有名詞

	教材名	中国の固有名詞		教材名	中国の固有名詞
巻2	5. 金の牛	大石橋，牛心山	巻4	4. 桃花源	支那，武陵
	15. 二人のちか目	陳，張		11. 龍首山	遼河，鉄嶺，龍首山
				19. 石持星と草持星	支那，黄河
巻3	7. 娘々廟	營口，大石橋，迷鎮山，娘々廟	巻5	5. 白鳩の精	張
	11. 望小山	熊岳城，山東，望小山		13. 孝婦河	山東省，博山，孝婦河
	18. 唐王殿	唐，太宗，高句麗2，金州，大和尚山，唐王殿		19. 十三重の塔	支那，伊元吉
	21. 春聯	支那，春聯	巻6	10. 牛と羊	齊，宣王，孔子，孟子，支那，泰山，北海
	22. ある犬の話	大連，小崗子，周		23. 鴻門の會	項羽，張良，范增，沛公，項伯，樊噲
	25. 杜子春	杜子春			
	教材名	日本の固有名詞			
巻5	19. 十三重の塔	日本，奈良，東大寺，伊權守行末，般若寺			

結局食べられなかった〔フシギナ饅頭（初巻4-14)〕、お爺さんが発見した若返りの池の水を飲みすぎてしまい、赤ん坊にまで戻ってしまったお婆さんが登場する〔ふしぎな水（初巻6-12)〕、がある。また、**《怠惰を戒める話》**として、川の中で躓き積み荷の塩を溶かした驢馬が同じことを繰り返し、楽をしようとしたところ、今度の積み荷が綿だったため逆に重くなってしまった〔ナマケモノノ驢馬（初巻4-24)〕、君主が市民の公共心を試すため金貨の詰まった大石を路上に置き、誰かが撤去し褒美を得ることを待ったが、結局誰も何もしなかった〔路上の大石（高巻1-14)〕、朝から隣の靴屋による仕事の騒音に悩み安眠できずにいた隣の銀行家が、金を与える代わりに仕事をやめるよう要請し、逆に仕事を辞めた靴屋が貰ったお金のことで不眠になってしまった〔金で買えぬもの（高巻3-12)〕がある。そして、**《傲慢を戒める話》**として、穴から助けてもらった虎が、その恩人を食べようとしてしまい結果的に再び穴に落ちてしまった〔恩知らずの虎（高巻1-7)〕、などがある。いずれも、人間に内在する悪しき感情が出過ぎたため、良い結果とならなかった登場人物を登場させることを通して、調子に乗りすぎてはならないということを学習者に学ばせようとしている。また、**《愚鈍を戒める話》**として、驢馬の運び方について周りの人の意見に流されてしまい最終的に最も効率の悪い運び方をしてしまった〔人の口（初巻5-25)〕が挙げられる。

また、**《知恵者の機転》**をモチーフにした民話教材も少なくない。例えば、壺の中の水を飲みたいもののくちばしが届かなかった烏が、壺の中に石を入れて水位を上げ、飲むことができた〔烏ノチエ（初巻3-20)〕、虎の威厳を借りて自身が食べられることを回避した狐を描いた〔虎ト狐（初巻3-22)〕、猫の甘言に騙されず木から降りなかった〔小鳥ト猫（初巻4-20)〕、孟母三遷をもとにした〔賢い母親（初巻5-14)〕、蜀の諸葛孔明の知略で、敵国の大軍を率いた司馬仲達を退けた〔空城計（初巻8-7)〕、鶏の鳴き声を聞かせることで化け物を追い払うことができた唐の太宗の逸話を描いた〔唐王殿（初巻8-13)〕、神様の知恵と働きかけにより虎に食べられることから回避できた〔恩知らずの虎（高巻1-7)〕がある。

《報恩譚》としては、〔義犬（初巻6-17)〕、毎日お酒を飲みに来ていた老人にお金を請求しなかったお店に対し、お礼として老人が絵を描いたところ大変繁盛したという〔黄鶴樓（高巻1-30)〕、福の神が貧乏の神になりすまし家々を訪れたところ、多くの家では門前払いされたが、握り飯とたくあんをくれる情け深い家があり、その家には沢山の福を与えたという〔幸福（高巻2-1)〕、熱心に働いていたが貧しい靴屋が、小人に助けてもらいながらお店を切り盛りし、お礼として小人の靴を作ったところ、小人はもう現れなくなったがお店はたいそう繁盛したという〔小人と靴屋（高巻2-13)〕、泥棒がとある長者の宴席に忍び込み盗みを働いたが、十年後、貿易商となり珍しい宝石を持って恩返しにきた〔改心（高巻3-6)〕が挙げられる。そして**《孝行譚》**としては、〔望小山（初巻5-19)〕、〔義犬（初巻6-17)〕、〔孝婦河（高巻3-19)〕の他に、金榮という娘が、父親の病を治したいと願い擬似的なお宮参りを欠かさず行った〔孝女金榮（高巻1-5)〕、酒を飲むなという母親の戒めを忠実に守り通した〔志の堅い少年（高巻1-16)〕などがある。また親と子ではなく、兄弟同士で財宝を分け合いお互いが幸せに暮らす〔水中の玉（初巻4-27/28)〕がある。

《努力・忍耐を重要視する話》としては、若者に「俺達を切るか、股を潜るか」と煽られた韓信が、怒りを抑え、股を潜ったという〔韓信（初巻6-14)〕、白髪の老人に何度も呼びつけられ、その度に応じていたところ、最終的に珍しい兵書を貰うことができた〔張良（初巻

【表4】『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』に登場する中国・日本の固有名詞

初	教材名	中国の固有名詞	高	教材名	中国の固有名詞
巻5	19. 望小山	熊岳城，山東，望小山	巻1	5．孝女金榮	北京，金榮，丫髻山，張
巻6	4．月の桂	黄河，呉剛		20. 塞翁が馬	塞
	14. 韓信	漢，韓信		30. 黄鶴樓	湖北，辛，黄鶴樓
	17. 義犬	大連，小崗子，周	巻2	7．邯鄲の夢	呂翁，邯鄲，盧生，長安，天子
	25. 九曲の珠	孔子様		16. 和氏の璧	楚，卞和，厲王，武王，文王，藺相如，趙王，秦王
巻7	18. 不老不死の薬	秦，始皇帝，徐福，蓬莱			
	23. 張良	張良			
巻8	7．空城計	魏，司馬仲達，蜀，諸葛孔明，西城	巻3	19. 孝婦河	山東省，博山，孝婦河，顔文姜，顔神廟，宋，順徳婦人，靈泉廟
	13. 唐王殿	唐，太宗，遼東，高勾麗，金州，大和尚山，唐王殿			
	19. 寒食の日	晋			
初	教材名	日本の固有名詞	高	教材名	日本の固有名詞
巻7	18. 不老不死の薬	日本，九州，熊野	巻1	29. 應擧と猪	日本，應擧

7-23)〕、とある百姓が王様に宝石を献上しようとしたが偽物だと疑われ右足も左足も切られたが、次の王である文王に、宝石を本物だと認められ、褒美を授かったという〔和氏の璧（高巻 2-16)〕が挙げられる。

一方で、学習者に何を読み取らせようと試みたのか、その意図や訓育的目的が見出しにくい教材もいくつか見受けられる。例えば、〔小鳥の夢（初巻 3-24)〕、〔饅頭のねだん（初巻 5-21)〕、〔犬と蟹（初巻 7-15)〕、〔熊の情（高巻 2-14)〕、〔蛙（高巻 3-7)〕などである。

4.2. 『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』採録民話教材の要素からの検討

次に**《中国の固有名詞（土地 / 人名 / 文化)》**および**《日本の固有名詞（土地 / 人名 / 文化)》**の登場について取り上げる。以下、『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』の民話教材に登場する中国、日本の固有名詞の一覧を整理し**【表 4】**に示す。

この表からは、日本のことがらに触れようとする姿勢が薄いことを読み取ることができる。ただし、〔不老不死の薬（初巻 7-18)〕という、日本と中国の繋がりを示す教材があることは、先に示した北川が行った、朝鮮の教科書において古代からの朝鮮と日本との関係の深さが語られた内容が扱われていたという指摘と通じるものがあるといえる。

5. 『第二種初等日本語讀本』の民話教材の傾向

5.1. 第二種初等日本語讀本』採録民話教材のモチーフからの検討

続いて、『第二種初等日本語讀本』を取り上げる。**《強欲・怠惰・傲慢・愚鈍を戒める話》**としては以下の教材が挙げられる。まず**《傲慢を戒める話》**として、二匹のヤギが橋の上ですれ違う際に、お互いが譲り合わず、両方落ちてしまった〔ヤギ（題名なし）(巻 1)〕、足の遅いカメとの競争に自分が負けるはずないと過信したウサギが、途中で昼寝をしてしまい、結果的に負けてしまう〔ウサギとカメ（題名なし）(巻 1)〕、犬からの逃げ方を知っていると猫に豪語した狐がいざとなると何もできず助けを求めた〔ネコとキツネ（巻 2-36)〕、**《怠惰を戒める話》**として、壺の中の蜂蜜を食べつくした鼠が、体が太ったが故に外に出られなくなってしまった〔ネズミ（巻 2-30)〕、夏の間に怠け冬の準備をしてこなかったキリギリスがアリに食料を求め、アリに窘められる〔ありときり／＼す（巻 3-28)〕などが挙げられる。そして、**《愚鈍を戒める話》**として、〔人の口（巻 4-25)〕の他に、犬の甘言に騙され、くわえた肉を落としてしまった烏が登場する〔犬と烏（巻 3-13)〕、獣を恐れ森から逃げたウサギたちが、森の外にいる蛙を見て、四本足の獣の中にも弱い者がいることを知り、森に戻った〔ウサギ（巻 3- 補 2)〕、村の人たちが悪い形の角のある牛を気味悪がったため、持ち主の百姓がそれを直そうし、結局牛の角を折ってしまった〔牛と百姓（巻 3- 補 5)〕、とある村人の百姓が白い豚が生まれたことを王様に見せに行こうとしたが、都には沢山の白い豚がおり、意気消沈して帰ってしまった〔白い豚（巻 2-28)〕などがある。**《強欲を戒める話》**として、「ワルイオジイサン」が欲に任せ「善イオジイサン」の真似をした結果、痛い目をみてしまう〔花咲カジヽイ（巻 3-28)〕、〔人の口（巻 4-25)〕が挙げられる。

《知恵者の機転譚》としては、〔かしこい母親（巻 3-29)〕、〔犬と烏（巻 3-13)〕、〔唐王殿（巻 4- 補 4)〕などが当てはまり、**《報恩譚》**としては〔義犬（巻 4-21)〕、**《孝行譚》**としては〔望小山（巻 3-23)〕、兄弟愛としては〔水中の玉（巻 3- 補 6)〕が挙げられる。これらはいずれも前掲の『滿洲補充讀本』および『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』に採録されていたものである。

《努力・忍耐を重要視する話》としては、先に取り上げた〔ウサギとカメ（題名なし）(巻 1)〕、〔孝婦河（巻 5-13)〕の他、蛙が柳に飛びつくために何度も根気よく飛ぶ様子を見て、字をうまく書くのも根気よくやらねばと努力した結果、名高い書家となった小野道風のことが

【表 5】『第二種初等日本語讀本』に登場する中国・日本の固有名詞

	教材名	中国の固有名詞		教材名	中国の固有名詞
巻3	23. 望小山	熊岳城，山東，望小山	巻4	21. 義犬	大連，小崗子，周
	29. かしこい母親	孟子		22. 春聯	天子様，春聯
	補 3. 月の桂	黄河，呉剛		補 4. 唐王殿	唐，太宗，遼東，高勾麗，金州，大和尚山，唐王殿
巻4	6. 鐵の牛	金州		補 6. 寒食の日	晋
	10. 不老不死の薬	秦，始皇帝，徐福，蓬莱			
	教材名	日本の固有名詞		教材名	日本の固有名詞
巻3	10. 小野道風	日本、小野道風	巻4	10. 不老不死の薬	日本、九州、熊野
巻4	4. 森蘭丸	織田信長，森蘭丸		11. 塙保己一	塙保己一
				27. 乃木大將	乃木大將

語られた〔小野道風（巻 3-10)〕が挙げられる。

5.2.『第二種初等日本語讀本』採録民話教材の要素からの検討

最後に**《中国の固有名詞（土地 / 人名 / 文化)》**および**《日本の固有名詞（土地 / 人名 / 文化)》**の登場について取り上げる。『第二種初等日本語讀本』の民話教材に登場する中国、日本の固有名詞の一覧を整理し、**【表5】**に示す。

《日本の固有名詞（土地 / 人名 / 文化)》が登場するものとして〔小野道風（巻 3-10)〕、正直さと注意深さが認められ織田信長に重用された森蘭丸について語られた〔森蘭丸（巻 4-4)〕、雪舟の幼少期を描いた〔雪舟（巻 4-24)〕、乃木大將が武人の手本となった経緯について、父母の行動や人となりに着目した〔乃木大將（巻 4-27)〕が挙げられる。ここからは、日本の固有名詞の登場が『初等日本語讀本』、『高等日本語讀本』よりも多くなっていることを指摘できる。特に、尊敬の対象となりうる人物が取り上げられている。ただ注目すべきはその取り上げられる人物の特徴である。たとえば〔森蘭丸（巻 4-4)〕は、織田信長のように仕えられる側ではなく、森蘭丸という仕える側の人物にも焦点が当てられている。このことは、学習者に、「仕える」ことを肯定的に捉えさせる効果が見込まれる。また、〔塙保己一（巻 4-11)〕で焦点が当てられる塙保己一は、「盲」という存在である[3)]。これらのように、必ずしも社会的に絶対的な存在とされた人物を対象としているわけではないということを指摘することができる。

6.『普通學校國語讀本（第二期)』・『普通學校國語讀本（第三期)』の民話教材の傾向

6.1.『普通學校國語讀本（第二期)』・『普通學校國語讀本（第三期)』採録民話教材のモチーフからの検討

最後に、『普通學校國語讀本（第二期)』および『普通學校國語讀本（第三期)』の民話教材の内容の特徴を整理、検討する。北川知子（1994）は、この教科書を、「朝鮮民話・伝説から取材した教材が極端に少ない上に、わずかに採用されているものさえ植民地支配に都合のいい教材」(pp.TK-1-TK-2) であったとしているが、その取材元の場所を留保したとき、この教科書の民話教材の特徴は、いかなるものであったといえるのだろうか。なお、これらに位置づく教材の収録元の教科書を示す際、『普通學校國語讀本（第二期)』を2期、『普通學校國語讀本（第三期)』を3期と表記する。

まず、**《知恵者の機転》**をモチーフにした民話教材について取り上げる。生き肝を取られると察知したウサギが機転を利かせ逃走し生き延びる〔かめのおつかい（2期巻 3-19)〕、唐紙に描かれてある虎を縛れと殿様から命じられた小僧が「まず唐紙の虎をここに出してくれ」と返した〔お話ふたつ（2期巻 4-14)〕、穴から救い出された恩を忘れ、人間を食べようとした虎を、狐が元の穴に戻すことで解決した〔恩知らずの虎（2期巻 6-26)〕、壺の中の水を飲みたいものの、くちばしが届かなかった鵲が、壺の中に石を入れて水位を上げ、飲むことができた〔リコウナカササギ（3期巻 4-11)〕、旅人の服を脱がせようと強く吹き込んだ風に対し、あたたかな光をおくることで服を脱がせた日の知恵が描かれる〔日と風（3期巻 4-14)〕、寿命が残り僅かな農夫の「田畑に宝を遺した」という遺言を信じた子供達が、田畑を掘り返したもののそこに宝はなく、その代わりに豊作となった〔地中の宝物（3期巻 7-10)〕などがある。

《強欲・怠惰・傲慢・愚鈍を戒める話》としては次の教材が挙げられる。まず、**《強欲を戒める話》**としては、先に取り上げた〔恩知らずの虎（2期巻 6-26)〕の他、お米の有難さを知らない子ネズミを母ネズミが戒める〔米グラノネズミ（2期巻 2-16)〕、神様に願いを聞かれ、お菓子を求めた結果、腹が苦しくなってしまった一郎、おもちゃを求めた結果、飽きてしまった二郎が登場する〔三人の子ども（2期巻 3-23)〕、魚をくわえた犬が、川に映った自分の姿を他の犬だと勘違いし、川に映っている犬がくわえた魚を、吠えて奪おうとし自分の魚を川に落としてしまった〔ヨクノフカイイヌ（3期巻 2-11)〕、開けてはならない玉手箱を開けてしまい爺の姿に変わってしまった〔うらしまたろう（3期巻 3-14)〕、孔雀が神様に鶯のような声を求めたが、身分に応じて授けてあるのだと神様に窘められてしまった〔神様と孔雀（3期巻 6-11)〕がある。**《怠惰を戒める話》**として、猫と犬が全く協力せずに、鶏が育てた米をただ貰おうとし拒否された〔赤いニワトリ（2期巻 3-7)〕、**《傲慢を戒める話》**として、ぱかち（＝瓢箪）が、自分たちは人間の役に立っているはずなのに大切に扱ってくれていないと嘆きあった〔ぱかちの話（2期巻 4-11)〕、虎が助けてもらおうとしたにも関わらず恩人を食べようとした〔恩知らずの虎（2期巻 6-26)〕、〔ウサギとカメ（題名なし）（3期巻 1)〕などがある。**《愚鈍を戒める話》**として、泣いている赤子の傍に行った虎が、自分の姿を見ても泣き止まない一方で干し柿を見て泣き止んだのを見て、干し柿は自分より強いものだと思って逃げてしまった〔トラトクシガキ（題名なし）2期巻 1)〕、鏡に映る自分の姿を他の猫だと勘違いした猫が、威嚇して逃げてしまった〔ネコ

(2期巻2-7)〕、〔ろばをうるのう夫（3期巻5-19)〕などがある。

次に、**《報恩譚》**として、貧しい坊主を助けたお礼に宝を授かる〔三ツノタカラ（2期巻2-30)〕、天女を助けたお礼に父親の病気の治癒を願った〔もものみ（2期巻4-26)〕、鹿を助けた見返りに貴重な草を譲り受け、それを売って大金持ちになった〔萬壽（2期巻6-14、3期巻6-14)〕、大蛇に襲われた侍を、かつて彼が助けたことのある鵲が身を挺して助ける〔鵲の恩返し（3期巻6-25)〕、名医・儒者・詩人として知られる雨森宗眞が若い時に騙され借金を背負ったが、父の知人が肩代わりをしてくれたおかげで学問に勤しむことができ、後年感謝の意を碑にしたという〔恩人碑（3期巻12-23)〕などが挙げられる。**《孝行譚》**としては、前掲の〔もものみ（2期巻4-26)〕の他、親に楽な暮らしをさせられる人になりたいと願った息子が登場する〔親心（2期巻5-13、3期巻5-12)〕、高麗と女真の戦の最中、父の死に際に生まれる親子の絆を描いた〔李坦之（3期巻7-6、3期巻8-15)〕、父や母の遺言であった「忠誠を尽くす」ことを忠実に守った楠木正成について記した〔楠公父子（3期巻9-22)〕が挙げられる。また兄弟愛について描いたものとしては、〔なかのよい兄と弟（2期巻3-30)〕・〔水の中の玉（3期巻3-27)〕、妹の華香を山男に連れ去られた兄の眞純が、神様から三つの壺を貰い見事に撃退した〔三つのつぼ（3期巻4-25)〕があり、親子愛としては子を虎に食われた巴提便が、復讐のために虎を刺殺する〔巴提便（3期巻4-22)〕が挙げられる。

《努力・忍耐を重要視する話》としては、先に取り上げた〔ウサギとカメ（題名なし）（3期巻1)〕の他、毎日飛び方の練習をしていた三匹の子雀が、競争の際、それぞれが別の組で見事優勝し、金の羽を貰ったという〔子すずめ三羽（2期巻4-1)〕、出羽の国の医者佐藤信季がその子信淵に、死ぬ前に四代にわたる苦心を話し、それを聞いた子は勉学に励み農学の大家となって国家のために富源を開発し、とうとう大成した〔五代の苦心（3期巻9-12)〕、一切経の出版を思い立った鐵眼という僧が、何度も災害に見舞われながらも苦心の資金集めをその都度繰り返し、思い立ってから十七年でようやく出版に至った〔鐵眼の一切經（3期巻11-24)〕などが挙げられる。

【表6】『普通學校國語讀本（第二期)』・『普通學校國語讀本（第三期)』に登場する朝鮮・中国・台湾・日本の固有名詞

2期	教材名	朝鮮の固有名詞	3期	教材名	朝鮮の固有名詞
巻3	10. 花のにおい	新羅，とくまん	巻4	22. 巴提便	朝鮮
巻4	11. ばかちの話	新羅，瓠公		25. 三つのつぼ	眞純，華香
巻5	3．三姓穴	朝鮮，濟州島，良乙那，高乙那，夫乙那，三姓穴	巻5	26. 三姓穴	全羅南道，濟州島，良乙那，高乙那，夫乙那，三姓穴
巻6	5．昔脱解	新羅，昔脱解，多婆那國，金官國，月城	巻6	8．昔脱解	新羅，昔脱解，多婆那，金官國，慶州，月城
	14. 萬壽	萬壽		14. 萬壽	萬壽
巻7	6．李坦之	女眞，高麗，咸興平野，尹瓘，雄州城，李延厚，坦之，開城，定州，西湖津，都連浦	巻7	2．天日槍	新羅，天日槍，
			巻8	15. 李坦之	女眞，高麗，咸興平野，尹瓘，雄州城，李延厚，坦之，開城，定平，西湖津
巻8	14. 日の神と月の神	延烏，細烏	巻9	2．雞林	新羅，慶州，雞林，月城，始林，脱解王，瓠公，閼智，金氏，朝鮮
2期	教材名	中国の固有名詞	3期	教材名	中国の固有名詞
巻3	10. 花のにおい	唐，天子	巻5	12. 親心	南滿洲鐵道熊岳城驛，望小山，渤海
巻5	13. 親心	満洲熊岳城，望小山，山東，渤海	巻8	21. 娘々廟	營口，大石橋，迷鎭山，娘々廟
2期	教材名	台湾の固有名詞	3期	教材名	台湾の固有名詞
巻8	6．呉鳳	臺灣，蕃人，亞里山，呉鳳			
2期	教材名	日本の固有名詞	3期	教材名	日本の固有名詞
巻3	23. 三人の子ども	一郎，二郎，三郎	巻3	14. うらしまたろう	うらしまたろう
巻4	1．子すずめ三羽	忠太郎，忠子	巻4	22. 巴提便	巴提便，天子
	13. 扇のまと	源義經，那須與一，げんじ，へいけ，屋島	巻5	4．大蛇たいじ	天照大神，すさのおのみこと，八岐の大蛇
	14. お話ふたつ	東京	巻7	2．天日槍	垂仁天皇，播磨國，但馬國，神功皇后
	24. 雪舟	雪舟	巻8	20. 扇の的	屋島，源氏，平家，義經，那須與一
巻5	9．仁徳天皇	仁德天皇，難波，天皇	巻9	12. 五代の苦心	歡庵樣，元庵樣，不昧軒樣，佐藤，江戸，下野の國，足尾，出羽の國，佐藤信季，信季，宇田川玄隨，大槻玄澤
巻6	10. 弓流し	屋島，義經，源氏，爲朝		22. 楠公父子	元弘，笠置，赤坂城，近畿，楠木正成，金剛山，千早城，護良親王，吉野，北條氏，鎌倉，新田義貞，建武の中興，足利尊氏，京都，北畠，九州，直義，櫻井の驛，正行，河内，兵庫，名和，後醍醐天皇，攝津，高師直，四条畷
	21. 七里和尚	七里和尚，萬行寺	巻11	24. 鐵眼の一切經	山城宇治，黄檗山萬福寺，鐵眼，大阪，近畿地方，天和，福田行誠
			巻12	23. 恩人碑	箱根蘆之湯辨天山，安永，雨森宗眞，江戸，堺屋嘉兵衛，富士

6.2.『普通學校國語讀本（第二期）』・『普通學校國語讀本（第三期）』採録民話教材の要素からの検討

さて、『普通學校國語讀本』では、朝鮮のみならず、中国、台湾、日本の固有名詞も多く登場する。『普通學校國語讀本』の民話教材に登場する朝鮮、中国、台湾、日本の固有名詞の一覧を整理し、**【表 6】**に示す。

まず**《日本の固有名詞（土地 / 人名 / 文化）》**が登場する教材として、那須與一が登場する〔扇のまと（2期巻 4-13、3期巻 8-20）〕、雪舟の幼少期を描いた〔雪舟（2期巻 4-24）〕、仁徳天皇の仁政を取り上げた〔仁徳天皇（2期巻 5-9）〕、屋島の合戦における義経を描いた〔弓流し（2期巻 6-10）〕、仏教説話「七里恒順」に依拠した〔七里和尚（2期巻 6-21）〕が挙げられる。一方で《朝鮮半島の固有名詞（土地 / 人名 / 文化）》が登場する教材として、済州島における国産み神話〔三姓穴（2期巻 5-3、3期巻 5-26）〕、新羅の王である昔脱解の誕生譚について描いた〔昔脱解（2期巻 6-5、3期巻 6-8）〕[4]、〔李坦之（2期巻 7-6、3期巻 8-15）〕などがある。これらの特徴としては、この教科書の読者と同じ朝鮮人の、歴史的なことがらも厚く扱おうとしている点である。また、**《中国の固有名詞（土地 / 人名 / 文化）》《台湾の固有名詞（土地 / 人名 / 文化）》**の登場も特徴的なことがらとして指摘することができる。

7. 民話教材の内容の傾向に関する比較考察

以上、各教科書における民話教材の内容の傾向についてモチーフ・要素を観点に分析を行った。これらの結果から見える各教科書の特徴を比較検討する。

まず『滿洲補充讀本』は、他の教科書と比べ**《報恩譚》**や**《孝行譚》**の多さが特徴的である。また、これらに共通していることとして、登場人物が自己犠牲的であることがいえる。一方で、**《強欲・怠惰・傲慢・愚鈍を戒める話》**はそれほど採用されておらず、**《知恵者の機転譚》**には一教材のみの該当であった。また、**《日本の固有名詞》**の登場も少なく、日本（人名 / 土地 / 文化）に由来する民話教材はほとんど採用されていない。また、『滿洲補充讀本』に登場する教材は全体的に、満洲の地名や建造物に関する縁起という形で語られ、登場人物の内面まで描き出したものが多い。これらの背景には、編纂者である石森延男の影響が大きいといえる。石森（1931）は、『滿洲補充讀本』の編纂目的について、以下のように述べている。

> 滿洲補充讀本は、なるべく滿蒙の風物事情を記することにつとめ、在滿兒童の生活に親密な新鮮な材料を蒐集し、主として滿蒙支那を諒解せしめ且つ鄉土觀念を培ひ、なほ滿洲初等國語教育をして一層充實せしめんことを目的としたものである。（石森，1931:22）

すなわち、在満日本人対象の国語教育として、「満洲」郷土を意識させるような教材を多く盛り込んだものと考えられる。

次に、『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』では**《強欲・怠惰・傲慢・愚鈍を戒める話》**が多く、その中でも特に**《強欲を戒める話》**・**《怠惰を戒める話》**に該当する教材が頻繁に登場している。次いで**《知恵者の機転》**に焦点を当てた教材も多く採録されているが、**《孝行譚》**・**《報恩譚》**は少なく、ここに位置づくものであっても、『滿洲補充讀本』と共通する教材が多い。そして、『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』では、**《中国の固有名詞》**が多く登場し、**《日本の固有名詞》**については多いとはいえない。これは中華民国への配慮から、日本の色を出すことを避けた結果だと考えられる。

『第二種初等日本語讀本』においても、**《強欲・怠惰・傲慢・愚鈍を戒める話》**の多さが特徴的である。特に**《愚鈍さを戒める話》**に該当する教材が多く、**《知恵者の機転》**に焦点を当てた教材と合わせると、知恵の無さが悪い結果に繋がることを知らしめるような意図が窺える。また、『初等日本語讀本』・『高等日本語讀本』と比べ、**《日本の固有名詞》**の登場が増え、特に人物に焦点を当てた教材が多くみられる。日本の傀儡国家として旧満洲国が建国に向かうという時代性による影響が窺える。

最後に『普通學校國語讀本（第二期）』・『普通學校國語讀本（第三期）』について取り上げる。これらの教科書では、他の教科書に比べ、**《知恵者の機転》**に焦点を当てた教材や**《報恩譚》**・**《孝行譚》**が多いことが特徴として挙げられる。また、**《強欲・怠惰・傲慢・愚鈍を戒める話》**のうち、**《強欲を戒める話》**にあたる教材は多いが、**《怠惰を戒める話》**にあたるような教材は見受けられない。そして、**《朝鮮の固有名詞》**と**《日本の固有名詞》**は同程度登場しているが、民話教材の登場人物名をいかようにも設定しうる際に、敢えて日本風のものを選択している跡もいくつか散見される。さらに、**《中国の固有名詞》《台湾の固有名詞》**も登場していることからは、満洲とは違い、「日本人」の地位を与えられていた朝鮮の学習者に、他の植民地への理解を促そうとする姿勢も窺える。このことについて、『普通學校國語讀本（第二期）』を編纂した芦田恵之助は、その意

図を次のように回想している。

> 私は朝鮮にどんな國語讀本を作らねばならぬかをかんがえました。勿論朝鮮學童の國語を學習するに便利なものでなければなりません。しかしその内容が、民族意識を髙めて、その幸福を將来するものではなければならぬと思いました。（芦田，1950/1987：200）

このように、「民族意識を髙め」ることを念頭に置き、その背景には、日本への同化や他の植民地との差別化を図ろうとした思惑が見え隠れするのである。

8. 結語

以上、満洲および朝鮮における「国語」教科書の民話教材の内容に焦点を当て、検討してきた。これらの分析により、それぞれの土地での植民地教育の性格に違いがあったことの一端を垣間見ることができる。つまり、在満日本人学習者には、満洲を郷土として育てようとしていたこと、在満中国人学習者には、はじめ中華民国への配慮をしていながらも時代が下るにつれ、日本への同化の方向性に進んでいたこと、在朝朝鮮人学習者には、日本への同化だけでなく、正式な領土として他の植民地との差別化を図ろうとしていたことなどが明らかになった。これらは、当時の政治的な背景と密接に関係したものと捉えることができよう。

今後の課題としては、日本の植民地として存在していた、台湾、あるいは南洋群島なども含めた考察を行うことが挙げられる。

注

1）石森は14歳の時に母親を亡くしており、1935年には母親逝去25周年記念として童話集『母の思ひ出』（大連刊）を発刊し、また母親をテーマにした童話作品も手がけている。

2）高句麗の支配権には、満洲南部も含まれるため、以下でも中国の地名として計上している。

3）『第二種初等日本語讀本』で「盲」は、〔盲と牛乳（巻4－補1）〕にも登場する。

4）北川は、この教材について「古代朝鮮の指導者が日本出身であったという」点で「朝鮮が日本の植民地になったことを、歴史的に正当化しようという意図のうかがえる教材である。」（北川，1994：TK-1）と述べている。

参考引用文献

相沢博（1977）「モチーフ」稲田浩二，大島建彦，福田晃，三原幸久編著『日本昔話事典』弘文堂，956-958.

芦田惠之助（1950）『惠雨自傳上巻』開顕社.（芦田惠之助著，古田拡，石井庄司，青山廣志，井上敏夫，野地潤家編（1987）『芦田惠之助国語教育全集25』明治図書，15-240.）

池田匡史・黒川麻実（2021）「植民地〈国語〉教科書における民話教材の位相―満洲・朝鮮に着目して―」『読書科学』62(2)，70-84.

石森延男（1931）「改訂滿洲補充讀本「一の巻」について（一）」『南滿教育』1931年9月號，22-32.

小熊英二（1998）『〈日本人〉の境界―沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮　植民地支配から復帰運動まで』新曜社.

小澤俊夫（1999）『昔話の話法』福音館書店.

北川知子（1994）「朝鮮総督府編纂『普通學校國語讀本』の研究―朝鮮民話・伝説に取材した教材についての一考察―」『国語教育学研究誌』15，TK-1-TK-21.

三原幸久（1977）「要素」稲田浩二，大島建彦，福田晃，三原幸久編著『日本昔話事典』弘文堂，996.

渡部宗助（2006）「いま、植民（地）教育史研究―僕の場合」『植民地教育史研究年報』8，6-18.

Ikeda, M. & Yamamoto, M.（2021）. Ideology in Science Textbooks for Japanese Students in East Asian Colonies: Focusing on Plant Species that Appear in Manchuria Textbooks. *Eurasia Journal of Mathematics, Science and Technology Education*, 17(3), em1947.

【付記】本稿は、JSPS科研費21K13593の助成を受けている。

A Study on the Content of Folk Tales in the Japanese Language Arts Textbooks during Japanese Rule in Manchuria and Korea: Focusing on Motifs and Elements

Faculty of Childhood Education, Department of Childhood Education
Mami KUROKAWA

Hyogo University of Teacher Education
Masafumi IKEDA

Abstract

In the study of the history of Japanese colonial education in Manchuria and Korea, there have not been enough comparisons between these two colonies. However, in recent years, especially in the field of Japanese language arts education research, comparisons have focused on the folk tales in Japanese language arts textbooks.

In this paper, we focus on the folk tales in Japanese language arts textbooks for Japanese and Chinese residents in Manchuria and Koreans in Korea; we aim to clarify the characteristics of the contents of the textbooks by focusing on the motifs and elements contained in them.

As a result, the following observations are made:

1) The textbooks for Japanese students in Manchuria were designed to instill into them that Manchuria was their homeland.
2) The textbooks for Chinese students in Manchuria were initially about the Republic of China, but later it moved in the direction of assimilation of Japan.
3) The textbooks for Korean students in Korea were designed not only to assimilate them into Japan, but also to make them aware that Korea is a legitimate territory and therefore, it is different from other colonies.

Keywords: Colonies, Japanese Language Arts Textbooks, Folk Tales, Manchuria, Korea